

# 平和記念だより

平成26年度

## 高松市戦争遺品展



◆編集・発行:高松市役所 人権啓発課 平和記念係  
◆連絡先:高松市番町一丁目8番15号  
TEL:087-839-2293 FAX:087-839-2291

7月28日(月)～8月1日(金)にかけて、高松市役所1階市民ホールにおいて、第24回高松市戦争遺品展を開催しました。



▼日によっては、語り部さんから説明や体験談を聞けることも。



今年、高松空襲の被害状況や空襲被災写真のほか、収束焼夷弾(親)の実物大レプリカ(約2m)・焼夷弾(子)の展示や、最近寄贈された収蔵品等、計130点余りを展示しました。

今回は、特にテーマを「忠孝の教育」として戦時下の教育に視点を当て、当時の初等科の教科書や文具を展示したほか、「さわれるコーナー」として国民服や防空頭巾等に触れられるコーナーも設け、実際に戦地で使われた鉄兜の重さに驚く子どもや、展示された文具や出征する同僚に宛てて女性が中心になって集めた寄せ書き等に見入っている来場者が多く見られました。

また同会場にて、日本ユニセフ協会にご協力いただき『アグネス・チャン 日本ユニセフ協会大使 中央アフリカ共和国レポート』と題したパネル展も同時開催しました。

連日幅広い年代の方にご来場いただきました。ありがとうございました。



# 高松市戦争遺品展・来場者の感想

☆アメリカ資料による高松空襲計画について初めて知りました。戦争を風化させないために、これからも後世に伝えるために引き続きご尽力をお願いいたします。特攻隊員への寄せ書きも拝見して知覧のことがオーバーラップしました。

(74歳 男性・5歳頃高松空襲を体験)

☆見たくないような、思い出したくないような展示の品、しかし又なつかしいような思いもあり。

(83歳 男性・14歳頃空襲を体験)

☆私は83才です。しっかり写真を見ました。

見れば見る程頭に浮かんでくるものは涙と苦しさです。私は幼年学校を受験しました。残念ながら不合格！良かったか悪かったか。今でこそ考えています。当時は軍人の道が途絶えたと思い夜も眠れず、学も手につかず苦しみました。

(83歳 男性)

☆私は高松空襲の際は海軍特別幹部候補生として広島県広島市にいた為、高松空襲には直面してはいませんが、9月に入港、棧橋を渡って陸に上がった途端全くの焼野原の市内を見て、啞然としました。軍隊にいながら、空襲そのものにはあってなく、(広島で原爆にはあいましたが、原子雲を見た程度で当日あの雲の下で20万人近くの市民が爆死、焼死していた。)復員の途中広島を通る際は窓は遮蔽され何も見えず、岡山駅は無事でしたが、市街は高松と同じ状態でした。ともすれば忘れがちなこの戦争を体験した人が年々減少しているのが実態の時代に市が毎年これらに関する資料を展示されることは大いに歓迎します。たくさんの市民、特に戦争を知らない若者にもっとPRして是非1度は市のロビーに足を運んでもらいたいと思います。

(89歳 男性・20歳頃高松空襲を体験)



▲ さわれるコーナー

## 『高松戦災・原爆写真展』 (主催：高松市平和を願う市民団体協議会)

8月4日(月)～8月8日(金) 高松市役所1階市民ホール



『高松市戦争遺品展』の翌週には、同会場にて今年も『高松戦災・原爆写真展』が開催されました。

今回も、高松市が平成21年12月に加盟した平和首長会議において、加盟都市が5,000都市を突破したことを記念して全加盟都市に開催を呼びかけている「平和首長会議原爆ポスター展」を同時開催しました。

### 今後の行事予定

## 高松市戦争遺品等收藏品巡回展

- 【日時】 11月1日(土)～2日(日)
- 【場所】 香南支所1階ロビー
- 【内容】 高松空襲や戦時下の暮らしに関する写真パネル等の展示

## 教職員のための平和教育講演会

- 【日時】 1月6日(火)
- 【場所】 高松市役所 114会議室
- 【内容】 高松空襲体験談・貸出しパワーポイントデータの学習例実演





## 高松市平和記念館(仮称)の整備について・② 映像学習室

平和記念館(仮称)では、小中学校の学校団体による平和学習の機能をさらに充実させるため、新たに映像学習室を設置します。

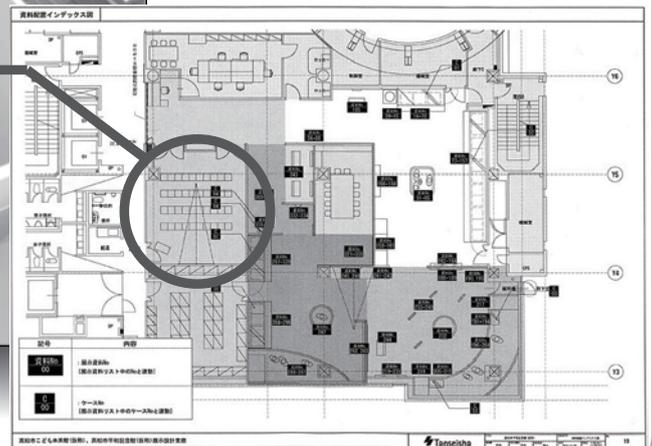
旧平和記念室では、市内の小学校5年生を対象とした文化センター学習の中で平和学習を行い、多くの子どもたちに対し、歴史を知り、戦争を知り、自ら平和について考えるきっかけとなる学習を行ってきました。

平和記念館では、再開する平和学習において、新規に設置する映像学習室で映像を活用したガイダンスを行うため、1クラス40人が映像を見やすいように100インチのスクリーンを設置することとしています。「高松空襲」や「戦時中の学校教育」など学習テーマの導入と施設の説明を行い、展示室で調べ学習を行った後、まとめを行うことにより、児童に理解しやすく、心に残る学習を行います。

また、校外学習が無い休日などには、平和に関する映画などのDVDの上映を行うことを考えております。



詳細は人権啓発課・平和記念係のホームページでご覧いただけます。



## 高松市の戦争遺品の収集がNHKのニュースで紹介されました。

7月25日のNHKのニュースで、戦争体験者の高齢化が進む中の戦争遺品の寄贈について、高松市人権啓発課とその寄贈者が紹介されました。

遺品を寄贈される方の、遺品への想い、遺品を通して「悲惨な戦争を繰り返してはならないと伝えなければ」という想い。そして、寄贈を受けた高松市は、遺品を後世に伝え、展示していくことにより、戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えていく責務を感じているという内容でした。

## 探しています！

高松市では、引き続き戦争中の生活の様子を伝える資料等を収集しています。特に、玩具、蓄音機、戦時中のことが記載された記念誌や自分史等ございましたらご一報ください。皆様からのご提供をお待ちしています。

ご寄贈いただいた資料は『戦争遺品展』等で展示するほか、一部貸出しもしておりますので、詳細は人権啓発課・平和記念係までお問い合わせください。



## 収蔵品紹介 45

《最近の収蔵品より》



▲ 日本刀を帯刀する井上 士 氏

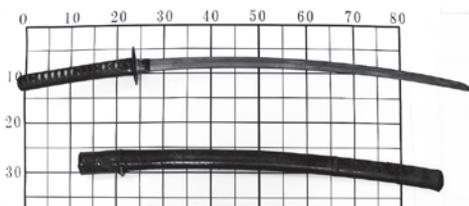
### 【軍刀】 提供者 井上文子様

提供者の夫である 士(といち)氏が将校になった時に、士氏の父親が武運長久を願って作らせたものである。軍から支給された、いわゆる官給軍刀は命を守るには粗末なもので、ご両親の思いもあり、特別に知人に依頼し作らせたもの。鞘には両親の名前が入っていた。

将校の軍刀は自弁の私物兵器だから一定の制式はあるが、寸法も中身も自由で、中には柄に家紋をはめ込んだダンディもいた。下士官・兵用の軍刀は造兵廠で作った量産品で騎兵の攻撃用甲型が刀身81.5cm 砲兵・憲兵などの自衛用乙型が71.4cmと短い。

(参考引用文献 北村恒信著「戦前・戦中用語ものしり物語」光人社より)

写真は昭和19年、宇都宮陸軍飛行部隊少尉の頃のもので、復員時は中尉。士氏は両親から贈られた軍刀を大切に、亡くなるまでご自分で手入れをしていたとのこと。



### 【寄せ書き】 提供者 佐々木謙二様

提供者は、昭和20年5月に自ら海軍を希望し、広島の大竹海兵団に入隊。当時は出征国旗に女性が記入することが許されなかったため、出征時に職場の三井造船所(玉野市)の女性職員が中心となって作成し、贈られたもの。

統制が厳しい時で、特に憲兵が眼を光らせていたおり、中央に漫画風の女の子が描かれていたり、「お元気で」「元気だね!」といった出征兵士にはふさわしくない言葉の書かれた寄せ書きが残っていたことが大変珍しい。

4枚のトレーシングペーパーからなり、職場の同僚や近所の人たち約40名からの本音のメッセージがある。大変貴重な資料である。

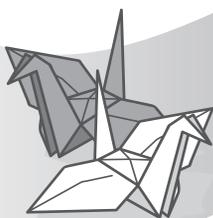


### 【チョッキ】 提供者 谷口政子様

提供者が戦時中(空襲時)に着用していたものを、祖母が編みなおし、戦後も愛用したもの。男女児用各1枚ずつある。

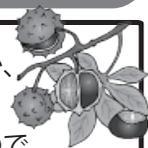
終戦間近になるとすべての物資が不足し生活も困窮していた。特に食糧品や衣料品については切符制になるほど厳しかった。昭和19年頃は、切符を一人当たり2割返納すると軍服4万着ができると、衣料切符の返納が奨励された。実際、切符があっても現物はなかなか手に入らなかった。この制度は昭和25年、生産が回復するまで続けられた。

配給制度が強まったこの時代に「国民決意の標語」が選定され、最も有名なのが「欲しがりません、勝つまでは」であるが、セットになっていたのが「足らぬ足らぬは、工夫が足らぬ」である。このチョッキは、この時代を象徴する「工夫」である。



編集  
メモ

今回は、毎年恒例の戦争遺品展、高松戦災・原爆写真展の様子のほか、平和記念館(仮称)の整備や、今後の行事予定についてお知らせしました。人権啓発課・平和記念係ではパネル等の資料貸出しも行ってまいりますので、平和について改めて考えるきっかけ作りには是非お役立てください。



▼ホームページアドレス (平和啓発の推進事業がご覧いただけます)

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/18976.html>